資料①　　感染症対策ガイドライン　（令和３年４月１日改正）

１　基本的な感染症対策の徹底

○　手洗いやうがい、活動場所の除菌等の基本的な感染症予防対策を徹底する。

２　無観客での実施（　引率者の人数は、監督（顧問）・コーチを含めて最大５人までとする。）

○　出場選手と監督（顧問）、コーチ、引率者以外の会場の立ち入りを禁止、会場内の密集状態を緩和する。

○　競技終了後は帰宅することとし、勝ち残った選手と監督（顧問）、コーチ、引率者以外の会場への立ち入りを禁止する。

３　開・閉会式の中止

○　開・閉会式を中止し、諸連絡及び進行説明は放送によって行う。表彰は伝達表彰とする。

４　換気の徹底

○　定期的に会場内の窓を開放し、換気を行いながら競技を行う。

５　試合のマナー（　団体戦・個人戦・ダブルス戦のすべての競技について同様に対応する。　）

○　試合前と試合後のあいさつのみとする。（対戦相手、審判員、コーチとの握手を禁止とする。）

○　大きな声やガッツポーズ等の禁止、卓球台に手汗を拭くことを禁止する。

６　手指の消毒及びマスク着用の徹底

○　会場出入り口と競技フロアー出入り口に消毒液を設置し、監督（顧問）、コーチ、引率者、出場選手の手指の消毒を徹底する。

○　会場内でのマスク着用を徹底する。（試合中は外しても構わない）

７　大会参加者（　監督（顧問）、コーチ、引率者、出場選手　）の健康状態チェック

○　監督、引率者の指導のもと、別紙様式②の健康状態申告書に記入し、提出してもらう。

８　団体戦・個人戦・ダブルス戦のアドバイザー及び人数の制限

○　競技フロアーの密集とセット間のアドバイス時の密接状態を避けるため、団体戦・個人戦・ダブルス戦のアドバイザーを監督もしくはコーチの１人とする。（団体戦は２人とも入れる）

○　密集を避けるため、団体戦登録メンバー以外の選手が競技フロアーに降りて審判を行うことを原則として禁止、相互審判や個人戦では敗者審判とし、競技フロアー内の人数を抑える。

９　ボールの交換

○　試合球を適宜消毒・交換し、感染予防に努める。